

## 色に就き 色に随う

右の心は、待ちなる敵に、

こちらから様々に色を仕掛けて見れば、

また敵の色があらはるる也。

その色にしたがひて、勝つ也。

「兵法家伝書」より

(若狭町少年剣道大会 三方体育館)

## Contents

特集「みかた温泉きらら」	… 2
まちの話題	… 6
町長随筆、クイズ	…12
3歳で～す、文芸	…13
情報BOX	…15
すまいる	…19
シリーズ「住人十色」	…20
暮らしのカレンダー	…22



# みかた温泉 きららの湯



今日は、一段と寒いな…

今日は、疲れちゃったな…

そんな日は、  
温泉であつたまろ

今日は、気分がいいな！

今日は、嫌なことがあった…



## はじめに

わが国には、3,000を超える温泉地が存在します。また、源泉の数は約27,000か所とされています。県内においても、42の温泉地があり、158か所の源泉があります。

昭和37年の調査では、全国で約1,500の温泉地と約13,000か所の源泉となっていますが、バブル期などの高度成長期に伴い、「健康」志向がブームになり、温泉施設などが多く建てられたため増えたと考えられます。

また、バブル崩壊後も利用者の数が変わらないのは、不景気や働きすぎなどに対する疲れなどから、温泉に「癒し」を求める人が多いからではないでしょうか。

若狭町にも温泉がいくつかありますが、平成17年3月にオープンした若狭町立温泉施設「みかた温泉きららの湯」を今回ご紹介させていただきます。

(数値：環境省温泉利用状況調べ)



岩露天風呂

虹



漆風呂

の

湯



縄

文

の

湯



檜露天風呂



石風呂



和風塩サウナ



今日はどうしちゃかな？



遠赤外線サウナ



## みかた温泉きららの湯

平成 17 年 3 月のオープン以来、多くのお客様にご来場いただき、順調にいけば、今年の秋ごろには利用者数が 100 万人に達する見込みです。

施設の愛称となっている「きらら」は、浴室から望むことができる雲谷山くもたにやま一帯が、古来から雲母うんもが採れる山として知られ、近くにある三方小学校や三方中学校の校歌の中にも「きらやま」と歌われていることに由来するもので、雲母の別称でもある「きらら」と名づけられています。

外観は、多層式の和風建築の造りで、宮崎駿監督のアニメ「千と千尋の神隠し」に登場する“油屋”をイメージして設計されています。

館内に入り、2階に上がると「虹の湯」と「縄文の湯」に分かれており、週替わりで男女の浴室が入れ替わるようになっています。

浴室内は、箱庭風の露天風呂をはじめ、源泉風呂や遠赤外線サウナ（縄文の湯）、和風塩サウナ（虹の湯）などが設けられており、お好みのお風呂にゆっくりと浸ることができます。



# みかた温泉 きららの湯



心を癒す  
 身を癒す  
 天然の温泉が奏でる  
 懇々とわき出る  
 安らぎの旋律に  
 身を任せて…



## 温泉の成分と効能

温泉は、「温泉法」で次のように規定されています。温泉とは「地中から湧出する温水、鉱水および水蒸気その他のガス（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）」で、次の一つ以上の項目に該当するものをいいます。

- ①地中から湧出する際の温度が 25℃以上
- ② 1kg 中に、ガス性のものを除く溶存物質を 1000mg 以上を含有する。
- ③ 1kg 中に、遊離炭素、リチウムイオン、メタホウ酸など温泉法で指定された 18 種の物質一つ以上について、それぞれ設定された基準値以上を含有する。

### ■湯温による温泉の分類

- 冷鉱泉 … 25 度未満
- 低温泉 … 25 度～ 34 度未満
- 温泉 … 34 度～ 42 度未満
- 高温泉 … 42 度以上

(参照：社団法人日本温泉協会)

### ■みかた温泉きららの湯の効能

湯温による温泉の分類では、きららの湯は低温泉に分類されます。

泉質のナトリウム－塩化物温泉は、その名のとおり、なめると塩辛いのが特徴で、体を温める効果が大きく、血液の循環を良くし、筋肉をやわらげる効果があります。

また、この泉質の温泉は、入浴後の保温効果が高く、湯ざめしにくいいため、冷え性などにも効果があり、「子宝の湯」と呼ばれている温泉もあります。

### きららの湯の効能と温泉成分

湯温：33℃

湯量：190 リットル／分

泉質：ナトリウム－塩化物温泉

効能：神経痛、関節痛、筋肉痛、五十肩、運動麻痺、うちみ、ねんざ、慢性消化器病、切り傷、やけど、慢性皮膚病、虚弱体質、慢性婦人病



## 利用者の声

畠中 麻希 さん (南)

平均利用数 週1~2回



専門学校から帰ってきた時に母親に連れて来てもらったのがきっかけで、かれこれ6年ほど通っています。近くにあるので利用しやすく、源泉がうれしいです。湯上りも、体がホカホカと温まります。また、ストレスなどがあってもスッキリと気分転換になるんです。



## 支配人から一言

井関 達男 さん (東黒田)

きららの湯 支配人



いつもご利用いただきありがとうございます。きららの湯もオープンしてから今年で8年目を迎えます。これからも、皆様に満足していただける温泉施設を目指し、従業員一同が一層精進、努力してまいります。今後ともご愛顧のほどよろしくお願いいたします。



## ACCESS



## INFORMATION

### みかた温泉きららの湯

入浴料：一般 600 円 (大人・中学生以上)

子供 300 円 (小人・小学生以下)

乳幼児 (3歳未満) は無料

定休日：毎月第一水曜日

〒919-1333

福井県三方上中郡若狭町中央 1-6-1

TEL 45-1126 / FAX 45-0333

E-mail info@mikata-onsen.com



# まわりの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って  
いましたらご連絡ください。  
写真をさしあげます。  
(企画情報課 TEL45-9110)



◀研修成果を発表する研修生



▶今春卒業する研修生



## 研修の成果を報告 (1/18)

かみなか農楽舎で研修報告会が行われました。この日の報告会には、森下町長や卒業生ら約40人が参加し、研修生が、栽培や販売を通じて学んだことや挑戦して失敗したこと、そして今後の目標や抱負を語りました。

研修生は、研修を振り返り、「地域の方との交流が大きな励みになった」と話していました。

現在、農楽舎に研修生が5人いますが、うち4人が今春に卒業し、そのうち3人が若狭町で農業を通じて定住する予定となっています。



## 若狭町で義理人情を調査 (1/18-21)

マレーシアから日本へ留学している大学院生のリュウ・イーチャさんが、修士論文の作成にあたり、若狭町で聞き取り調査をしました。

リュウさんは、2008年に町と観光協会が外国人観光客の誘致を目的に実施したモニターツアーに参加して以来、約4年ぶりの来町となりました。

リュウさんは来日当時、日本は東京や大阪のような風景で、人も冷たいといったイメージでしたが、若狭町で家族のような優しさや温かさに触れたことが印象深く、今回の調査地に若狭町を選んだそうです。

今回の調査では、当時知り合った民宿の女将さんや、観光協会の職員らに質問をしていました。



◀2008年のモニターツアーで訪れた時のリュウさん(写真左から2人目)



▶聞き取り調査をするリュウさん(写真左)



◀奉納した9,239人分の署名簿



▶誓いの言葉を述べる古崎三方支部長



## 交通安全を願います (1/19)

末野の恵比須神社で、若狭町交通安全祈願祭が行われ、交通安全協会や警察署員など関係者約30人が出席しました。

祈願祭では、敦賀交通安全協会の古崎邦夫三方支部長が「交通事故のない安全・安心な若狭町を目指し、交通の場に関わる全ての人々と協力し、諸対策を推進してまいります」と誓いの言葉を述べました。

続いて、町内9,239人分の交通ルール遵守・マナー向上署名簿を奉納し、今年一年の交通安全を願いました。



◀出来上がった料理

▶調理の腕を振るう参加者ら



## 中華料理に挑戦！ (1/20)

キッチンスタジオDE 魅力アップセミナーが、パレア若狭で行われました。

今回は、「ギョーザづくり」をテーマに、町内で中華料理店を営む大野一郎さんを講師に迎え、参加した17人がギョーザとチャーハンの作り方を学びました。

参加者は、大野さんからギョーザの皮の包み方のコツを教えてもらい、具を皮に上手に包むと「お店のギョーザみたい」と嬉しそうにしていました。

このセミナーは、料理教室を通じて自分の魅力を高めようとする全4回の企画です。

今回で3回目の開催となり、参加者の料理の腕もかなり上達したようです。



## 熊川葛を使おう！ (1/21)

若狭町特産の熊川葛を使った料理講習会が、熊川公民館で行われました。

講習会は、熊川葛の利用方法を学び、家庭の料理でも活用してもらおうと行われたもので、青池調理師専門学校の前松里香さんを講師に迎え、熊川地区の住民約20人が参加しました。

この日は、「茶碗蒸し熊川葛あんかけ」、「熊川葛のみぞれ汁」など5品を作り、講師の前松さんは、「熊川葛は料理の引き立て役として重要な役割を果たすほか、栄養価も高く、とろみが口当たりを良くし、食べやすくしている。また、料理の保温効果もあるので家庭で気軽に使って欲しい」と話していました。



◀出来上がった熊川葛を使った料理

▶調理をする参加者ら



◀事例報告会を聞く参加者

▶講演する富田講師

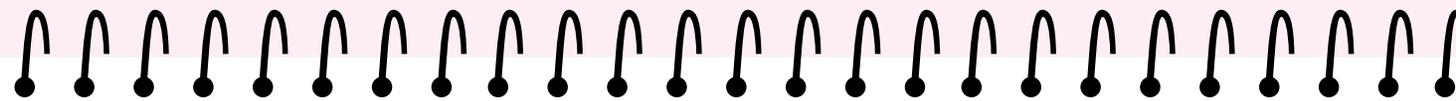


## 小学校へ行くまでに (1/21)

保育カウンセラー配置事業事例報告会が、パレア若狭で行われました。

保育カウンセラー配置事業とは、「落ち着きがない」、「集団行動ができない」、「衝動的である」など気になる児童を受け持つ保育士や保護者に対し、専門のカウンセラーが助言や援助などを行うもので、助言を受けた保育士から、子どもへの支援内容についての取り組みが発表されました。

その後、臨床発達心理士の富田純子さんの講演会が行われ、参加した約80人の保育士や養護教諭らは、保育所から学校へと子どもの生活の変化について、真剣な表情で聞いていました。



◀文化財を運び出す訓練を行う住民（玉泉寺）



▲消火訓練を行う住民（成願寺大坊）



## 文化財を守るぞ（1/22、1/29）

成願寺集落にある成願寺大坊において、文化財火災防ぎょ訓練が行われました。

成願寺大坊には、町指定文化財の阿弥陀如来坐像と聖観世音菩薩立像が安置されており、訓練では、出火を発見した住職や住民らが初期消火や、文化財の運び出しを行いました。その後、消防署員や消防団員による放水訓練が行われました。

この訓練は、昭和24年に奈良県にある法隆寺で発生した火災を教訓として、文化財保護を呼びかけるために毎年行われています。

1月29日には、県指定文化財の薬師如来坐像が安置されている、玉置集落の玉泉寺でも同様の訓練が行われました。



## 普通の生活ができる幸せ（1/23）

東日本大震災の発生直後に被災地で救援活動に携わった、敦賀美方消防組合の岩本浩利さんが、母校の三方中学校で活動の様子を講演しました。

岩本さんは、震災時に救急消防援助隊の福井県隊の第一陣として派遣され、岩手県陸前高田市で救助活動を行いました。講演で岩本さんは、「被災地の状況を目の当たりにしたときに、経験したことのない状況で不安や恐怖を感じたが、同時に与えられた使命感が湧き上がってきたことを今でも覚えている」と当時の心境を語りました。

また、生徒らに対して「今でも家族を探す人たちがいる。普通に家族と生活できる幸せを感じて欲しい」と生きることの大切さを語りました。



▲活動の様子を説明する岩本さん



▲住民と意見を交わす議員ら



## 議会を身近に（1/23）

住民と意見を交わす「議員と語る会」が1月23日から全11か所で行われました。

議員と語る会は、議会の動きを説明するだけでなく、住民からの意見や要望などの声を直接聞くことで、議会と住民との距離を縮めようとする取り組みです。

この日、鳥羽公民館で行われた会には、地区の住民約20人が出席し、議員と自由に意見交換を行いました。

住民からは、遊休地の利用や交通アクセスの利便性向上など多くの意見が出され、議員は一つひとつの質問や意見に対して丁寧に答えていました。



▲究極の接客・販売術について講演する三浦さん



## 売上不振を打破しよう (1/25)

わかさ東商工会本所で、経営セミナーが行われ、会員ら約 50 人が参加しました。

セミナーは、地域の消費拡大や販売拡大を目的に開催され、今回、カリスマ弁当販売員として注目され、現在は株式会社日本レストランエンタプライズ大宮営業所の所長を務める三浦由紀江さんを講師に招き、「売上不振を打破する！究極の接客・販売術」と題した講演が行われました。

三浦さんは、「お店は舞台。止まっている舞台は誰も見ない。常に商品の位置を変えたりして、お客さんが喜ぶ演出をすることが大切」と話していました。



## 研究成果のお味は？ (1/27)

若狭町特産料理研究発表会が、美方高校で行われました。

発表された料理は、同校食物科が町と協力し、町の特産品である福井梅を使った新たな料理で、生徒が 1 年かけて研究、開発したものです。

今回の発表会では、3 年生 14 人が朝から調理し、何度も練習を重ねた料理を手際よく作って、器に盛りつけました。

梅ワッフルや梅わらびもちなど、14 品を参加者全員で試食し、梅の風味や食感、味のバランスなどについてお互いに評価し合い、更なる研究に向上心を抱いていました。



▲手際よく料理を作る生徒



◀森下町長から登録証を受け取る小堀社長

▶登録証を手にする小堀社長



## 登録で得る責任 (1/29)

昨年の秋に、店舗兼醸造所と併設する煙突が国登録有形文化財に登録された鳥浜酒造株式会社（鳥浜）で、記念式典が行われました。

式典には、関係者ら 40 人が出席し、森下町長から小堀安彦社長へ登録証が手渡されました。

今回の登録に向けた調査を行った福井大学大学院の高嶋猛講師が、「柱の組み方など地域特有の造りがみられる上、地域のシンボルとなっている点が認められた」と説明すると、小堀社長は、「登録されたことで、個人の物ではなく、地域の物という責任がある。建物に負けない酒を造りたい」と、保存に向けた意気込みを語りました。